

2019年6月2日(日)

日本人口学会第71回大会

於 香川大学教育学部

老親介護はどれだけ続くのか？

: 子世代の視点から

中村 真理子

(国立社会保障・人口問題研究所)

配布資料スライド18枚目3行目

測定バイアスと脱落の影響はあるにせよ、長期化の傾向か

→削除

配布資料の訂正

2

研究目的

- 個人が親に対して行う介護(=老親介護)の実態を定量的に把握すること
 - いつ、どのくらいの確率で経験するのか？
 - どれだけの期間続くのか？
- 現役世代(=子世代)の視点から集計・分析
 - 子世代が中高年に経験するライフイベント
 - 全国調査の個票データから全体像を提示
- 家族介護の実態把握
 - どのような調査・研究が必要なのか？

3

背景

- 少子高齢化の進展に伴う介護需要の増加
 - 健康寿命の延伸(厚生労働省「健康日本21(第2次)」)
 - 介護離職ゼロ(「ニッポン一億総活躍プラン」)
- 高齢者介護を対象とした研究
 - 質的研究, 小規模調査
 - 家族介護が健康, 労働供給に与える影響
 - 調査・研究対象が女性のみ
- どれだけの期間続くのか？
 - 高齢者介護を定量的に測定する...視点の整理が必要

4

高齢者介護の測定：視点の整理

5



高齢者介護の測定：視点の整理

6



高齢者介護の測定：視点の整理

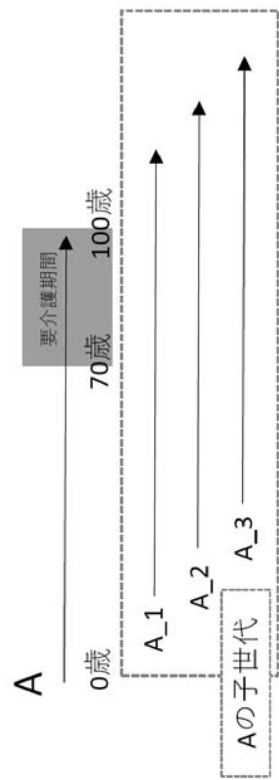
7



- 分析単位は高齢者個人(個人の高齢期)
- 介護保険制度
- 国民生活基礎調査(介護票)
- 疫学研究(健康寿命)

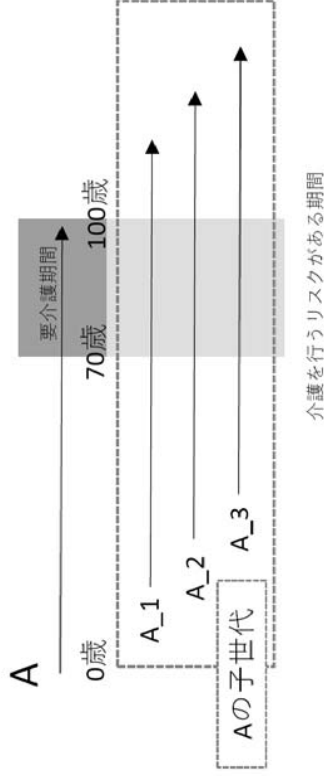
高齢者介護の測定：視点の整理

8



高齢者介護の測定：視点の整理

9



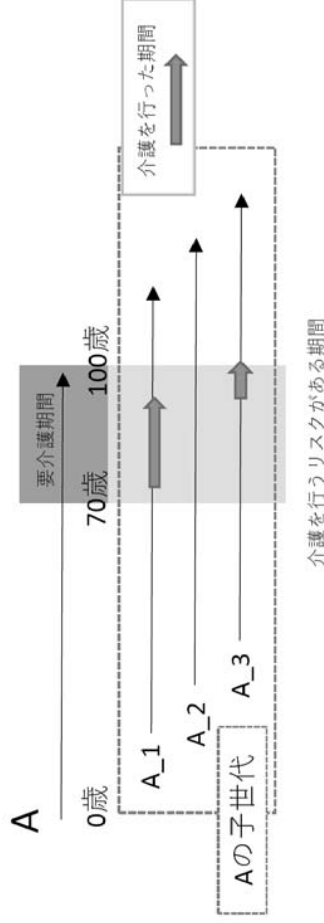
高齢者介護の測定：視点の整理

11

- 高齢者への家族介護
 - 被介護者(高齢者)の要介護期間
 - 介護者(家族の成員)が介護を行う期間
- 分析単位は家族の成員個人のライフコース
 - 調査時点における介護の実施状況では不十分
 - 過去の経験を聞く回顧形式のライフコース調査
(長期間にわたる)縦断調査

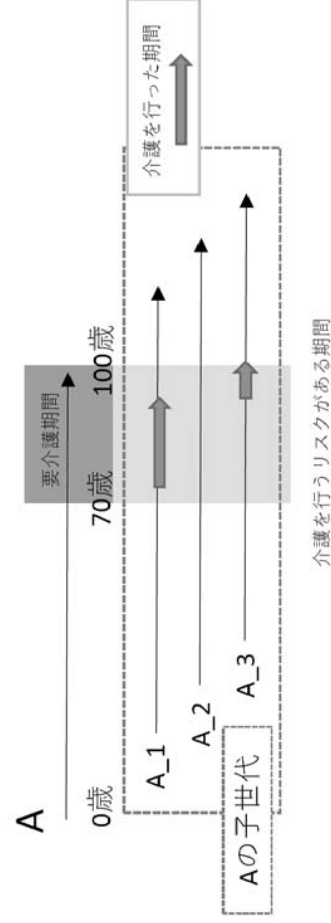
高齢者介護の測定：視点の整理

10

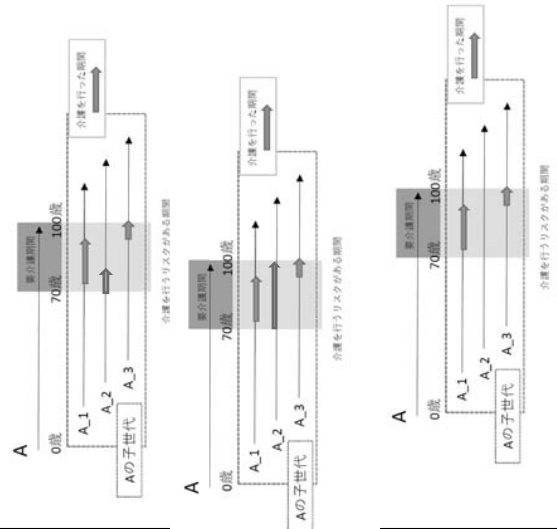


高齢者介護の測定：視点の整理

12



高齢者介護の測定：視点の整理



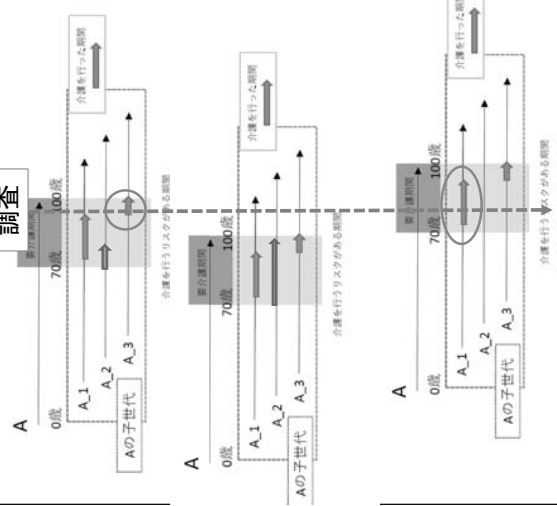
一般的横断調査における介護に関する質問

- 例1 平成29年就業構造基本調査(H29) 「家族の介護をしていますか」 介護をしている(→頻度) 介護をしていない
- 例2 第5回家庭動向調査 「現在、あなたはご家族のどなたかを介護していますか」 中心となって介護している 中心的な介護者を手伝っている 以前に介護をしていたが、現在はしていない 家族の介護をしたことは無い →現在の介護に最初に関わりはじめたのは...
- 例3 日本版General Social Survey(2001) 「あなたは、家族を介護(1ヶ月以上)したことがありますか」 現在行っている 過去に行ったことがある

問題点

既に終了した介護経験の詳細がわからない
長期にわたる介護の情報が測定されやすいか？

高齢者介護の測定：視点の整理



高齢者介護の測定：視点の整理

- 高齢者への家族介護
 - 被介護者(高齢者)の要介護期間
 - 介護者(家族の成員)が介護を行う期間
- 分析単位は家族の成員個人のライフコース
 - 調査時点における介護の実施状況では不十分
 - 過去の経験を聞く回顧形式のライフコース調査 (長期間にわたる)縦断調査

研究の方法

【分析①】第1回全国家族調査(NFRJ98)

- 1920~1940年出生コーホートの者
- Person-ageデータの作成と集計
- 自分の親、配偶者の親との死別経験
その過程でどのくらいの期間の介護・看病を行ったのか？
- 介護保険施行(2001年)前の状況

【分析②】中高齢者縦断調査(第1回~第4回)

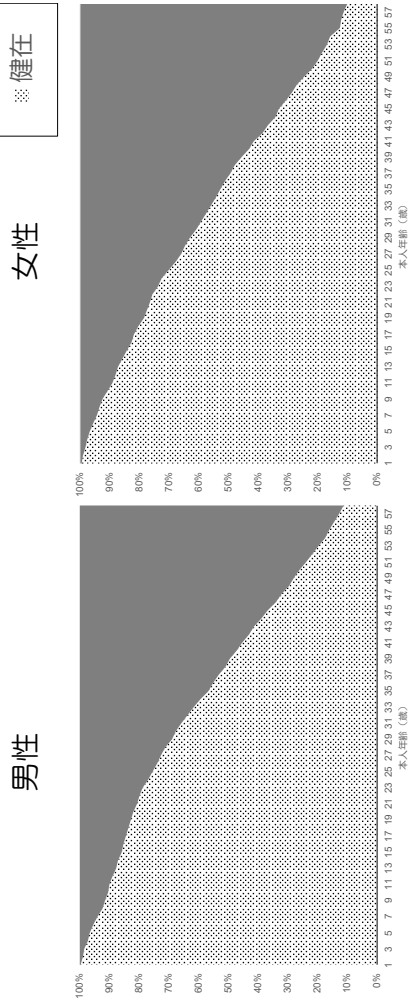
- 1940年代後半~50年代後半コーホートの者
- 調査期間中に開始された介護が翌年も継続する割合
- 50歳代で発生する老親介護がどれだけ続くのか？
- 介護保険施行(2001年)後の状況

分析①データと手法

- 第1回全国家族調査(NFRJ98)
 - 日本国内に居住する1921～1970年生まれ (1998年末で28-77歳) の日本国民
 - 10,500人 (回収数 6,985人, 回収率 66.52%)
 - 高齢者調査票(1921～1940年生まれ, 58～77歳)
- 対象者の親(義理の親)が調査時点で亡くなっている場合
 - 亡くなるまでに介護・看病を必要とした期間
 - 調査対象者が介護・看病に関与した期間
- Person-ageデータの作成
 - 58歳時点までの情報を使用

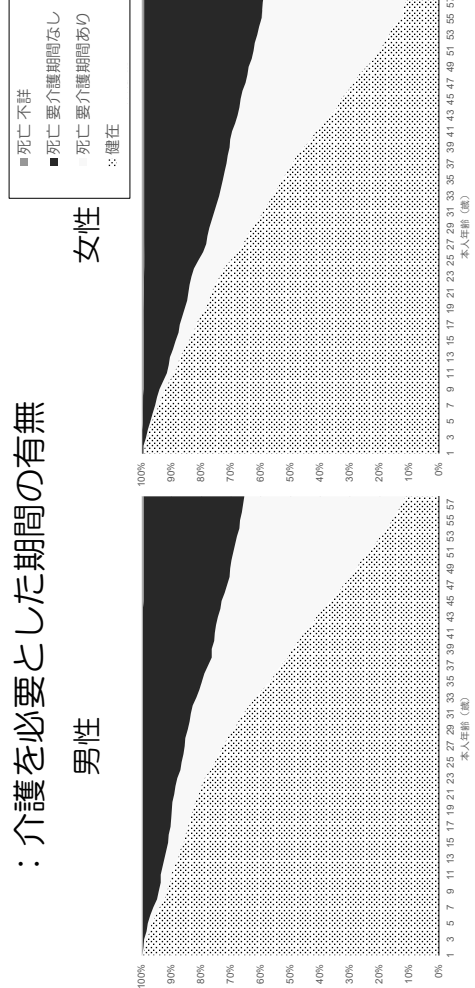
分析①自分の両親・義理の両親との死別

図1 自分の父親の健在・死亡割合 (本人年齢別)



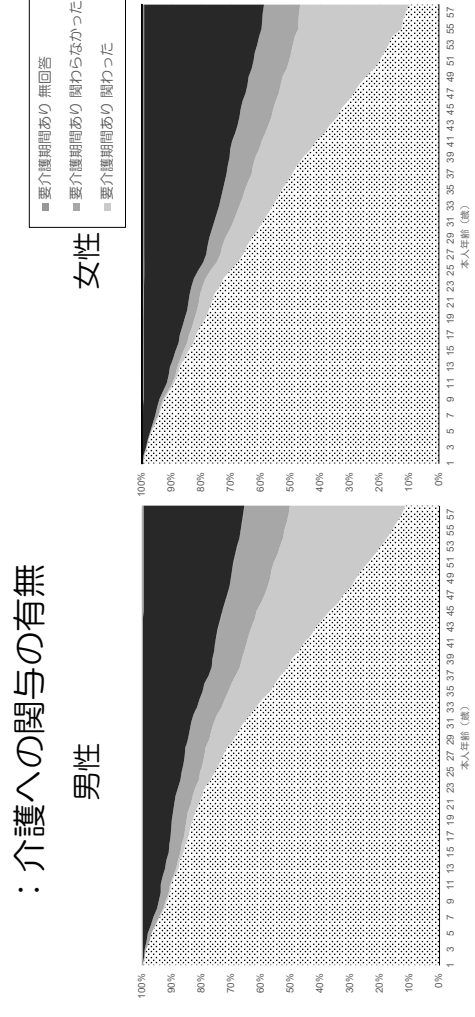
分析①自分の両親・義理の両親との死別

図2 自分の父親の健在・死亡割合 (本人年齢別)



分析①自分の両親・義理の両親との死別

図3 自分の父親の健在・死亡割合 (本人年齢別)



分析①58歳時点の状況

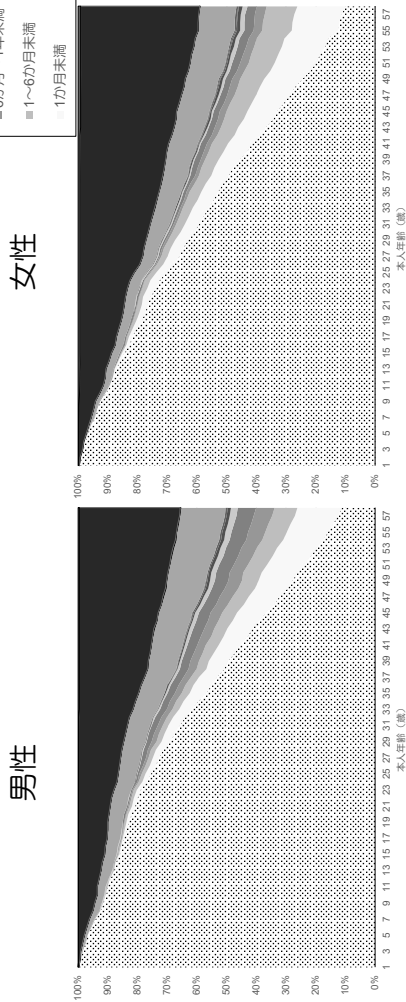
- 4人の親(自分の父・母, 義理の父・母)について, 男女別に集計し, 58歳時点の構成を比較

表1 58歳時点における自分の親・義理の親の健在・死亡の構成割合
: 介護を必要とした期間の有無, 介護への関与の有無と期間(男女別)

	健在		死亡										合計	
	未婚	結婚前	要介護期間あり										要介護期間 間なし	
			介護に関わった										介護に 関わら なかった	不詳
			1-6か月未満	6か月~1年未満	1-3年未満	3-5年未満	5-10年未満	10年以上(不詳)	無回答					
自分の父親	男性	11.4%	7.7%	6.2%	2.3%	1.1%	0.6%	0.1%	15.1%	0.1%	33.9%	0.4%	100.0%	
	女性	10.1%	10.5%	3.2%	3.3%	1.6%	0.3%	0.5%	12.3%	0.0%	40.3%	0.7%	100.0%	
自分の母親	男性	36.0%	6.8%	3.5%	5.8%	2.8%	0.8%	0.1%	10.6%	0.1%	23.6%	0.5%	100.0%	
	女性	36.0%	13.3%	4.7%	3.9%	2.3%	0.6%	0.1%	8.5%	0.0%	22.3%	0.5%	100.0%	
義理の父親	男性	1.3%	1.3%	1.6%	1.2%	1.0%	0.1%	0.1%	12.8%	0.0%	19.7%	0.7%	100.0%	
	女性	3.6%	6.3%	3.3%	4.1%	1.4%	0.7%	0.2%	6.4%	0.1%	18.9%	0.2%	100.0%	
義理の母親	男性	1.2%	2.0%	1.5%	1.0%	0.2%	0.0%	0.0%	12.1%	0.0%	14.5%	0.4%	100.0%	
	女性	3.6%	6.8%	3.7%	2.8%	2.0%	1.1%	0.3%	5.3%	0.0%	14.4%	0.1%	100.0%	

分析①自分の両親・義理の両親との死別

図4 自分の父親の健在・死亡割合(本人年齢別)
: 介護に関与した期間



分析①結果

- 1921~40年出生コーホート58歳時点の状況
 - (自分の・義理の)父親がすでに死亡...約9割 (自分の・義理の)母親がすでに死亡...約6割
- うち, 死別前に親の介護に関わった者は4割~7割
 - 自分の親...要介護期間がないまま亡くなる, 介護に関わらない
 - 義理の親...結婚前に既に亡くなっている
- 亡くなる前に要介護期間があった場合
 - 介護に関わらない者も一定数存在(2~5割)
 - 2~3割は1か月未満, 1年以上は少数(女性が多い傾向)
 - 男性は義理の親の介護に関わらない傾向

分析①58歳時点の状況

- 4人の親(自分の父・母, 義理の父・母)について, 男女別に集計し, 58歳時点の構成を比較
- 表2 58歳時点における自分の親・義理の親の健在・死亡の構成割合
: 要介護期間があった場合の介護への関与とその期間(男女別)

	合計	介護に関わった		介護に関わらなかった		不詳					
		無回答(不詳)		無回答(不詳)							
		1-6か月未満	6か月~1年未満	1-3年未満	3-5年未満		5-10年未満	10年以上			
自分の父親	男性	27.3%	14.3%	11.4%	4.3%	2.0%	1.0%	0.2%	27.9%	0.2%	100.0%
	女性	32.9%	21.4%	6.5%	3.2%	2.4%	0.6%	1.1%	25.1%	0.0%	100.0%
自分の母親	男性	22.1%	16.7%	8.5%	14.1%	6.9%	3.1%	2.1%	26.0%	0.3%	100.0%
	女性	31.7%	18.5%	11.0%	9.4%	5.5%	2.2%	1.4%	20.1%	0.0%	100.0%
義理の父親	男性	23.5%	11.7%	6.1%	4.5%	3.6%	0.4%	0.4%	48.6%	0.0%	100.0%
	女性	25.6%	19.9%	10.5%	13.0%	4.5%	2.1%	0.6%	20.5%	0.3%	100.0%
義理の母親	男性	21.3%	8.6%	6.3%	5.9%	4.5%	0.9%	0.0%	52.5%	0.0%	100.0%
	女性	20.7%	19.3%	10.6%	17.1%	7.9%	3.0%	0.8%	14.9%	0.0%	100.0%

(注) 集計対象は親(自分の父親・母親, 義理の父親・母親)に要介護期間があった者

分析②データと方法

- 中高年者縦断調査(第1回～第4回調査)
 - 2005年10月末時に50歳から59歳の者が対象
 - 1940年代後半～1950年代前半出生コーホート
 - 調査実施時点における親族への介護の実施の有無
- 50歳代で発生する老親介護がどれだけ継続するのか？
- 新たに始まった老親介護が1年後に継続している割合
 - 第n回で介護を非実施→第n+1回で介護を開始
 - 第n+2回時点で継続・非継続
 - 脱落の影響を考慮し, 第1回～第4回の情報を使用
- 介護を継続していない＝死別, ではない

研究の方法

- 【分析①】第1回全国家族調査(NFRJ98)
- 1920～1940年出生コーホートの者
 - Person-ageデータの作成と集計
 - 自分の親, 配偶者の親との死別経験
その過程でどのくらいの期間の介護・看病を行ったのか？
 - 介護保険施行(2001年)前の状況
- 【分析②】中高年者縦断調査(第1回～第4回)
- 1940年代後半～50年代後半コーホートの者
 - 調査期間中に開始された介護が翌年も継続する割合
 - 50歳代で発生する老親介護がどれだけ続くのか？
 - 介護保険施行(2001年)後の状況

まとめ

- 老親介護はどれだけ続くのか？
 - 1921～40年出生コーホート(58歳までに自分の親と死別)
- 要介護期間がない・・・約3～4割
 要介護期間があったが介護に関わらなかった・・・約1～2割
 介護に関わった・・・約4～5割
 うち, 介護期間が1か月以内・・・約3割
 6か月以内・・・約4～5割
 1年以内・・・約5～6割
- 親世代の平均寿命, 子世代のきょうだい数, 介護保険制度
 - 近年のコーホートでは, より高い年齢で, より高い確率で, より長期に経験するライフイベントになっている可能性
 - 家族介護研究における回顧調査の重要性

分析②結果

- 1年後も同じ相手を介護し続けている割合
 - 脱落を含めると2割～5割, 除くと8割以上
 - 測定バイアスと脱落の影響はあるにせよ, 長期化の傾向が

表3 新たに始まった介護が翌年も継続している割合
: 男女別, 介護の相手別

	介護の開始 (イベント数)	1年後	
		継続	脱落
男性	自分の父親	36.6%	57.7%
	自分の母親	42.8%	53.2%
	義理の母親	18.8%	75.0%
女性	義理の父親	26.6%	67.9%
	自分の父親	41.9%	47.7%
	自分の母親	49.5%	45.7%
	義理の母親	37.5%	52.4%
	義理の父親	49.6%	46.6%

- 本研究は、厚生労働行政推進調査事業費補助金(政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業))「国際的・地域的視野から見た少子化・高齢化の新潮流に対応した人口分析・将来推計とその応用に関する研究(研究代表者石井太、課題番号(H29-政策-指定-003))」と国立社会保障・人口問題研究所の一般会計プロジェクト「長寿革命に係る人口学的視点からの総合的研究」による助成を受けた。
- 二次分析に当たり、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJデータアーカイブから第1回全国家族調査(NFRJ98)(日本家族社会学会全国家族調査委員会)の個票データの提供を受けました。
- 「中高年者縦断調査」の個票データは、厚生労働行政推進調査事業費補助金(政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業))「国際的・地域的視野から見た少子化・高齢化の新潮流に対応した人口分析・将来推計とその応用に関する研究(研究代表者石井太、課題番号(H29-政策-指定-003))」のもとで、統計法第32条に基づき二次利用申請により使用の承認(平成30年8月6日)を得たものである。